

第501回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 令和元年5月8日(水) 午前10:30より

2. 開催場所 長野放送本社会議室

3. 委員の出席 ○委員総数 8名
○出席委員数 8名
○出席委員の氏名(敬称略・委員は五十音順)

委員長 林 新一郎

副委員長 渡辺 重久

委員 荻原 健司

委員 春日 十三男

委員 加藤 恵美子

委員 笹本 正治

委員 佐藤 裕一

委員 田中 宏昌

○欠席

なし

○放送事業者側出席者名

外山 衆司 (代表取締役社長)

矢澤 弘 (取締役報道制作担当)

飯塚 憲彦 (取締役編成・業務推進・放送番組審議会担当
業務推進局長)

石黒 敏也 (取締役総務局長)

柳沢 浩之 (編成局長兼放送番組審議会事務局長)

上小牧 忠道 (編成局次長兼編成部長兼視聴者室長)

春原 晴久 (報道制作局長)

4. 議題

(1) 番組審議

『A社Presents働き方改革から始まる未来』

(平成31年3月21日木曜日午後4:19～4:49放送)

※この番組に対し、一視聴者からBPO（放送倫理・番組向上機構）にご意見が寄せられたため、今回の番組審議で取り上げた。

(2) 視聴者対応報告（平成31年4月分）

5. 議事概要

(1) 番組審議

- ・番組としてはコンセプトをきちんとして作り直さないといけない。これでは一企業の宣伝に見えた。視聴者意見の通りに感じた。
- ・チェック体制の甘さは謙虚に反省してチェックして欲しい。
- ・A社と同じ業界の人が見たら「なぜここばかりPRしているのだろう」と思うだろう。CMが一度も入らないのもどうかと思った。企業の取り組みも最新の内容とは感じなかった。
- ・テレビショッピング、通販のような番組を観たという印象を持った。
- ・働き方改革自体は時宜を得たテーマと思って観始めた。しかし、働き方改革の中身がいつの間にか無くなって、コンセプトが茫洋としてわかりにくかった。ITや政府広報をパーツとしてちりばめて自社商品をPRする番組に見えた。
- ・視聴者の指摘はもつともだ。1件の視聴者意見に対して真摯に受け止めて対応しているのは、今後の長野放送にとってプラスになるだろう。長野放送の自社制作番組は県民に対する応援団的側面が特徴だと思う。それを向上させるためにもチェック体制をしっかりと作ってほしい。

- ・ B P O に提出した報告書に目を通した。課題や対策が過不足なくまとめられていると思う。改善策を実行に移してもらうことに尽きると思う。長野放送が同じテーマで番組制作に取り組めばはるかに良い番組ができるのに、と思った。
- ・ 実業界では働き方改革を黒船が来たように受け止めている。企業の総務部の人には関心事で、その人たちがこの番組を観たら愕然^{がくぜん}としたらろう。制作会社がどんなものを作るのかしっかりとチェックしてリリースする責任が放送局にはあると思う。実業界へ及ぼす影響など腰を据えて取材し、もっと厚みのある番組を作っ
て欲しい。

(2) 視聴者対応報告

資料に基づき平成31年4月分の視聴者対応について編成局より報告を行った。

以 上